

教育長様

校番 028 御調 高等学校

**「高等学校課題発見・解決学習推進プロジェクト」に係る研究開発校
令和元年度 報告****1 研究の概要****研究の目標**

本校で身に付けさせたい7つの資質・能力やルーブリックについて、生徒と協議を行いつつ、生徒が理解できる形に再整理し、周知する。また、総合的な探究（学習）の時間を柱として、各教科・科目、特別活動等の全ての教育活動を横断的に捉え直すとともに、カリキュラム・マネジメントの充実を図る校内体制をつくり、教育課程を再構築することで、生徒の資質・能力の伸長を図る。

研究内容**○ 総合的な探究（学習）の時間等における「探究的な学習」の充実について****ア カリキュラム・マネジメントの充実を図る校内体制の構築**

トップダウンやボトムアップがより機能し、教員一人一人が自立的に実践を行うことができるような推進体制を構築するために、「総合的な探究（学習）の時間」担当教員、教務主任、プロジェクト担当者、教務部、管理職等で定期的に会議や研修を実施し、情報共有を図った。また、次期学習指導要領を踏まえた教育課程の編成について検討した。

イ 「探究的な学習」の充実

年間計画及び各単元において探究のプロセスに則った授業展開を構想するとともに、身に付けさせたい資質・能力を基に「課題発見・解決学習」を取り入れた単元計画を作成し、実践した。

第1学年 「未来に生きる」

身に付けさせたい資質・能力を最初に設定し、指導計画を逆向き設計した。自己分析や職業研究、SDGsに基づいた学問研究等、幅広い知識や情報収集の手段に触れさせる活動を取り入れるとともに、課題を自分ごととして捉えさせるため、自分の意見を表現する場を多く設けた。また、次年度の「探究的な学習」のさらなる充実に向け、これまで「総合的な学習の時間」に取り組んできた3年生を対象に、「総合的な学習の時間」を通して身に付いたと思う資質・能力や、取組の改善案等についてアンケートを実施し、分析した。アンケートの結果から、より学びたかった分野として、国際問題や環境問題等、グローバルな視点での学習や、インタビューやプレゼンテーション等、体験的な学習を選ぶ生徒が多く、自らの進路の幅を広げ、社会に出た時に役立つ力を身に付けたいと感じている生徒が多いことが明らかになった。

アンケート結果から得た生徒の意見を踏まえ、来年度の「未来に生きる」の指導計画を再編成した。また、1学年から2学年へつながりを持たせるため、1学年の最後に「プレまなび」という単元を設定している。地域の方々の講演や、企業から講師を招聘して課題の設定について学ぶ中で、2学年で行う地域活性化に向けた取組について理解を深め、地域の現状や自分たちにできることについて考え、課題意識を持った状態で2学年での実践につなげられるように工夫を行った。

第2学年 「まなびのとびら」

「福祉・医療」「ソフトボール」「自然」「食物」「文化・伝統」の5グループに分かれ、地域の方や地域企業と連携し、御調地域の活性化に向けたプランの発案、検討、実践を行わせている。

年度当初には、企業コンサルタントを講師として招き、チームビルディングやブレインストーミング等のレクチャーを受け、集団の中での自らの役割や課題を明確にして目標をたてる手法を学ばせた（課題の設定）。今年度は地域の課題をより俯瞰的に捉え、根拠を持って仮説を立て、検証することを意識させるため、地域内外でのアンケートを実施させた。実施したアンケートの分析結果とともに、6月に行う年間計画発表会で、協力をいただく地域の方々から直接、意見や要望を聞くことで、計画に修正を加えさせた。各グループでフィールドワーク、企業との連携、イベントの実施等、計画を実践させた（情報の収集）。10月の中間報告会や、他校との交流の場

において、これまでの活動を振り返って整理し、活動への意見を分析することで、新たな視点を心得、改善につなげさせられるように工夫した（整理・分析）。2月には、年度のまとめとして、中高合同発表会を実施し、年間の取組とそこから得た学びを地域の方々や後輩に伝えるとともに、1年間の学びについて個人レポートを作成することで、自分の成長を振り返り、自己評価させることを意識した（まとめ・表現）。

このように、年間を通して大きな探究のサイクルを設定するとともに、単元や授業の中で、積極的に外部との交流や振り返りを行うことで、小さな探究のサイクルを何度も繰り返し、その都度修正を加える（トライアル&エラー）を意識した年間計画、単元計画を作成し、実践した。

○ 資質・能力の評価について

ア 資質・能力の設定、及び習得状況を把握する評価指標の明確化

まず、本校生徒に身に付けさせたい資質・能力は何か、教員にアンケートを行った上で、「総合的な学習の時間」の目標として設定していたE S Dの7つの資質・能力（批判的に考える力、未来像を予測して計画を立てる力、多面的・総合的に考える力、コミュニケーション力、他者と協力する態度、つながりを尊重する態度、進んで参加する態度）を、学校全体で身に付けさせたい資質・能力として設定した。資質・能力の定義については、E S Dの言葉をそのまま用いるのではなく、本校生徒の実態を踏まえるとともに、生徒会の生徒の意見を取り入れ、改訂を行った。また、卒業時に全員が到達する目標をレベル2と設定し、4段階のマスタールーブリックを作成した。そのルーブリックをもとに、学校行事と資質・能力の関連性を整理し、資質・能力の評価シートを開発し、実践した。各学校行事でどの力を伸ばすか、具体的な行動目標を生徒自身に事前に設定させるとともに、事後の振り返りを行わせることで、自己評価の充実を図った。また、行事毎に評価シートの形式を変え、生徒の記述をもとに、その都度修正・改善し、本校の生徒実態に適した評価方法を検討した。評価シートは、担任を通じて記入させ、ポートフォリオとして蓄積し、面談で使用する等、学校全体での取組として共有を図った。

イ カリキュラムマップの作成

教科横断的な学びについての意識を向上させるため、各教科で育成したい資質・能力を見取る評価問題（パフォーマンス課題）を踏まえた単元計画を作成し、他教科の教員と共に検討する研修を継続的に行った。他教科との協議や、兵庫教育大学の奥村好美准教授からの指導・助言をもとに検討、修正を加え、研究授業として実践した。参観授業、事後協議についても教科の垣根をなくして他教科の教員と交流の場を多く設けたことで、教科間のつながりに気付くとともに、生徒の様子を共有し、生徒基点の課題設定について理解を深めることができた。また、他教科との協議の中で出た案をもとに、芸術科と外国語科で、ソフトボールの合宿で来校したメキシコ選手団に向け、生徒が英語で書道を教えるという教科横断的な授業の実践につなげることができた。

校内研修や他教科との協議、資質・能力についての評価シートの分析等、これまでの取組から得た気付きをもとに、学校行事、探究的な学習の時間、教科等、全ての教育活動のつながりを、身に付けさせたい資質・能力を軸として捉え直し、整理することで、資質・能力を軸としたカリキュラムマップの作成に向け協議を進めている。

今年度の成果と課題

○総合的な探究（学習）の時間等における「探究的な学習」の充実について

（成果）社会に開かれた教育課程の編成のため、地域人材や企業、大学、他校と積極的に連携を行い、生徒が学校内外で発表や情報収集の場を多く設けることで、小さな探究のサイクルを繰り返すことができた。また、他校との交流により、自分たちの取組を俯瞰的に捉え、修正・改善につなげさせることができた。

（課題）アンケートに、「学校や私たちは地域に支えられていることに気付いた」「自分の力で地域を良くしたい」等、地域と自らのつながりについて回答した生徒が多かったが、そこに留まらず、よりグローバルな視点を持って、世界や社会と自分自身がどのようにつながり、どのように貢献していくのかを考え、広い視野を持った人材の育成を目指して活動を工夫する必要がある。

○資質・能力の評価について

（成果）定期的に生徒から意見を聞き、その意見を踏まえて評価方法等を検討し、評価活動を実施することで、生徒を基点とした教育活動に取り組むことができた。各行事に応じて評価シートの形式を修正・改善することで、より効果的な資質・能力の評価について考えを深めることができた。また、パフォーマンス課題について、専門家による教科横断的な研修を継続して行うことで、教科の垣根を越えた教員同士の情報交換や生徒の状況を共有する場が増え、教科横断的な視点で授業を捉える意識が高まった。

（課題）個々の単元計画や行事に留まらず、資質・能力、教科横断、社会とのつながりという視点で年間指導計画やカリキュラムマップの検討を行い、教育課程を再編成していく必要がある。

次年度の目標及び取組内容

○ 総合的な探究(学習)の時間等における「探究的な学習」の充実について

引き続き、社会に開かれた教育課程を意識し、地域内外の企業や他校との連携、交流を行う。1学年では地理歴史・公民科や理科の教員と連携し、国際問題や環境問題について理解を深めさせるとともに、企業の実施するワークショップ等を活用し、社会とのつながりについて考える機会を設定する。より多角的な視点を持ち、社会問題を自分事として考え、自分自身が社会で果たす役割を意識させた上で2学年の実践につなげ、設定されている目標である「地域の活性化」に留まらないより深い学びを目指す。

また、「総合的な探究の時間」の評価基準を、学校全体で身に付けさせたい資質・能力のルーブリックに沿って再設定し、学校行事等の教育活動と「総合的な探究の時間」での学びのつながりを明確にする。

○ 資質・能力の評価について

各行事の評価シートについては、生徒が自分の能力に応じて目標を設定しやすくするため、資質・能力を各自で選び、記述する形式を用いる。また、選んだ資質・能力を表にまとめ、確認できるようにすることで、3年間を通して身に付けた資質・能力を可視化し、生徒が自分自身の成長や課題を振り返ることができるようにする。

また、学校全体で身に付けさせたい資質・能力を柱に、各教科・科目、「総合的な探究の時間」、学校行事等を整理し、それらをつなぎ合わせて、教科横断的なカリキュラムマップを作成する。また、教員の指導力向上のために、パフォーマンス課題の研修を引き続き充実させ、教科間でのつながりを意識した授業づくりに取り組む。